

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		各グループ・教 科・学年の1年 間の目標	各グループ・教科・学年の取組の内 容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実 施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の確かな学力の定着と学習意欲の向上につながる組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②国際教育を推進し、多様な価値観を受容する力を育む。</p> <p>③生徒会活動・学校行事等の活性化に取り組み、自己有用感やリーダーシップを育む。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業に係る研修を実施し、授業改善の意識強化を図る。</p> <p>③学校行事等の運営について、生徒主導の機会を増やす。</p>	<p>①年間の「授業研究及び研修」計画において設定した講習会等でアクティブラーニング型授業に係る研修を実施する。</p> <p>①各教科において、単元の内容を考慮したうえで、積極的にアクティブラーニングを取り入れる。</p> <p>③自主的な生徒会活動の活性化と充実を図り、積極的な取組を引き出す。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業に係る研修を実施することができたか。</p> <p>①生徒による授業評価の項目4において、「4：とてもそう思う」と「3：そう思う」を選んだ生徒が各教科で8割以上となったか。</p> <p>③生徒主導の機会を増やすことができたか。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業に係る研修を実施し、授業改善の意識強化を図る。</p> <p>①全学年で基礎学力診断テストを実施した上で報告会を開催する。</p> <p>③学校行事等の運営について、生徒主導の機会を増やす。</p>	<p>①年間の「授業研究及び研修」計画において設定した講習会等でアクティブラーニング型授業に係る研修を実施する。</p> <p>①基礎力診断テストの結果データを、教科指導や保護者面談、進路指導に活用するよう、教科や学年に働きかける。</p> <p>③生徒からの発信を受け止め、職員へ提案する。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業に係る研修を実施することができたか。</p> <p>①研修の内容が教員の生徒指導の助けとなっているか。</p> <p>①基礎力診断テストが生徒の自己理解を深め、その後の学習意欲の伸張につながったか。</p> <p>③生徒からの発信を受け止め、提案することができたか。</p>	<p>①産業能率大小林教授を講師に招きアクティブラーニング型授業に係る研修を実施することができた。</p> <p>①10科目中「とてもそう思う・そう思う」の計が8割を超えたのは5科目であった。</p> <p>①面接時の配布資料として有効活用はできたが、業者との連携に課題があった。</p> <p>③夏季略装期間にポロシャツの着用を可能とすべく発信を行った。</p>	<p>①研修を生かした授業の改善点を集約しなかった。</p> <p>①ほぼ8割に達していた科目が2科目あり、7/10科目はほぼ目標を達成した一方、情報等固定化されたPC席でグループ学習が設け難い科目があることなども考慮したい。</p> <p>①早期に業者担当と打ち合わせを行い、教員への結果のフィードバックと成績資料の有効な使用方法について説明が行われる機会を設定するなど、再提案を目指す。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業へのシフトは評価できるが、その為のロードマップを作成するべきだ。また、授業改善と基礎力診断テストの有機的な活用を検討すべきである。</p> <p>①生徒による授業評価の結果は悪いものではないと判断するが、学年別に集計する等もっと工夫・改善すべき。</p>	<p>①アクティブラーニング型授業のロードマップを示す。</p> <p>①質問項目の見直しをする。</p>	
2 (幼児・ 児童)生 徒指導・ 支援	<p>①生徒とのコミュニケーションの充実を図り、きめ細かく粘り強い生活指導・生徒支援を組織的に行う。</p> <p>②部活動の活性化に取り組み、責任感や自己肯定感を育む。</p>	<p>①生徒一人ひとりの理解を深め、情報の共有化を進め、学年とグループが協働で組織的な支援を行う。</p> <p>②部活動の日ごとの成果を発表する場や活躍の場を増やし、活動を奨励する。</p>	<p>①支援が必要な生徒の状況を各学年で共有し、グループと連携して支援する。必要に応じてSCやSSWを有効に活用する。</p> <p>②部活動に係る活動環境を整備し、部活動への加入50%以上をめざす。</p>	<p>①授業中や休み時間の生徒の活動状況をよく観察するとともにコミュニケーションを図り、支援が必要な生徒の情報を学年で共有し、外部機関を含めた教育相談体制のもと課題が解決できたか。</p> <p>②より充実した活動が行われたか。加えて部活動の加入率が50%以上を達成できたか。</p>	<p>①生徒一人ひとりの行動特性などの情報を共有化し、学年とグループが協働で組織的な支援を行う。</p> <p>②部活動の日ごとの成果を発表する場や活躍の場を増やし、活動を奨励する。</p>	<p>①ルール、マナーの指導を徹底し、規範意識を育成する。携帯電話やスマートフォン等によるトラブルの予防を目的とした啓発と早期発見に努める。支援が必要な生徒の情報を共有し、必要に応じてSCやSSWを有効に活用する。部活動に係る活動環境を整備し、部活動への加入を促す。</p> <p>①部活動に係る活動環境を整備し、部活動への加入を促す。</p>	<p>①生徒の規範意識等が向上したか。</p> <p>問題行動の予防ができたか。</p> <p>アドバイスを望んでいる生徒に対し適切な支援ができたか。</p> <p>②より充実した活動が行われたか。加えて、部活動の加入率が増加したか。</p>	<p>①きめ細かく生活指導を組織的に取り組み、問題行動の予防に努めることができた。</p> <p>必要に応じてスクールカウンセラーや児童相談所などと連携して問題解決に努めた。多くの生徒は規範意識を向上させて学校生活を送ることができた。</p> <p>②年間を通じて部活動への参加を促すきっかけづくりを行ったが加入率は目標とする数値に届かなかった。今後は、より積極的な啓発活動を検討する。</p> <p>②文化部の活動発表の場ともなっている文化祭へ向けての部活動HPを使い発信することができた。</p>	<p>①問題の事案に応じて警察や外部の支援機関の適切な連携を検討していく。</p> <p>②各部の活動状況を積極的に発信していくことで、加入率の増加につなげていきたい。</p>	<p>①SNSの使用に対する講演会は有効だと思うので継続すべきだ。講演会や啓発等の効果が高学年に上がるにつれ現れると言ったことなので、一定の評価ができる。</p> <p>②部活動が自己肯定感を培うと言う点は理解できた。ならば、なお一層部活動の加入率向上を図るべきだ。</p>	<p>①SNS講演会を継続できている。講演会以外でも啓発活動を行うべき。</p> <p>②文化祭等を文化部発表の場として活用できた。部活動加入率を向上させるための具体的な方策を検討、実行したい。</p>	<p>①日常的な啓発方法を検討し、実行する。</p> <p>②部活動加入率向上のための方策を広く検討し、実行に移す。</p>

3	進路指導・支援	①多様な進路希望の生徒に細かく対応するため、3年間の系統的な進路支援体制を充実させる。	①適切な勤労観や職業観の育成をめざし、進学・就職ともに進路行事の充実を図り、進路未決定者を少なくする。	①キャリアガイダンスを充実させるために、学年ごとの実施目的を明確にし、プログラム内容の充実を図る。	①キャリアガイダンス実施後の生徒アンケート等で、生徒の満足度が前年度に比べ高かったか。	①学年ごとに実施されるキャリアガイダンスの内容を充実させる。	①学年ごとに目標を明確にして、プログラム内容を充実させる。	①実施後に行ったアンケートで満足度の高い結果を得ることができたか。	①3年キャリアガイダンスのアンケート結果では、5段階評価で4と5が約60～70%、3以上は約95%であるという結果だった。	①生徒にとって進路決定に役立っていることがわかるが、さらに多くの生徒が満足できる内容になるよう検討していきたい。	①進路決定をもっと早めに促すべき。新入生で具体的な進路を持って入学する者が少ないのならば、それを改善する方法を検討し、実行して欲しい。	①計画どおりキャリアガイダンスを実施し、3年生の進路決定率の高さを発揮した。1・2学年において、目標としての進路決定をどう促すか検討し、実施したい。	①1・2年生への進路決定促進の方法を検討し、実施する。
4	地域等との協働	①地域に開かれた学校、地域から信頼される学校をめざし、地域との連携・交流を推進する。	①地域と連携して実施できる事業について模索し、実現できることから取組を進める。	①「お茶とお花の会」等地域連携事業の広報を徹底する。 ①小中学校との連携を図り、授業研究を推進する。	①地域連携事業の広報を徹底し、地域との連携が強まったか。 ①小中学校との連携を図り、授業研究を推進できたか。	①地域と連携して実施できる事業について模索し、実現できることから取組を進める。	①「お茶とお花の会」等地域連携事業の広報を徹底する。 ①小中学校との連携を図り、授業研究を推進する。	①地域連携事業の広報を徹底し、地域との連携が強まったか。 ①小中学校との連携を図り、授業研究を推進できたか。	①「お茶とお花の会」等地域連携事業の広報を図り、いっそうの交流連携を図れた。又、マラソン大会等行事において市沢地区連合町内会等の地域との協働を図れた。 ②地区小中合同の研究授業・会議に出席し、また西谷中学と連携を図り3回に亘る交流授業研修を行った。	①地域連携事業の広報をグループとして組織的に行えるようにする。 ②本校からの参加者数を増やしたい。	①PTAと地域と生徒との交流・協働はより推進させるべき。今年、自分も参加し、本校生徒は挨拶ができるなど実態を把握でき有意義であった。	①PTAと地域と生徒との交流・協働は一定の評価ができる。部分的、局所的な交流でなく、恒常的な交流・協働の場を設けられるかが課題である。	①PTAと地域と生徒との交流・協働を恒常的に行える方法論を検討し、実施する。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安全で安心して生活することができるため、教育環境の管理に努める。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、一層の組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ③事故・不祥事の防止を徹底する。	②生徒と向き合う時間を確保するため、会議の回数等を調整する。 ③定期的に事故・不祥事の防止のための意識啓発をし、OJTを含めた職員研修を実施する。	②校内のポータルサイトやメール等の活用や日常の打ち合わせの質を高めるとともに、効果的な会議を進めることにより会議時間の短縮を図り、会議の回数を減らす。 ③職員打ち合わせ、事故防止研修や管理職による面談を通して、定期的に事故・不祥事防止の意識啓発を図る。	②会議等の時間が減り、生徒と向き合う時間が前年度に比べて多くなったか。 ③事故・不祥事を防止できたか。	②会議の回数等を調整する。 ③事故・不祥事の防止のための意識啓発をする。	②校内のポータルサイトの利便性を上げ、効率的に利用できるようにする。また、会議時間の短縮を図り、会議の回数を減らす。 ③定期的に事故・不祥事防止の意識啓発を図る。	②会議の時間を減らすことができたか。 ③事故・不祥事を防止できたか。	②ポータルサイトの利用により、朝の打ち合わせの時間は短縮された。グループ会議は、企画会議の開催日を意識し、グループ業務の進行を考慮し開催日を調整することができた。 ③奨学金関係の書類や緊急時（地震など）における個人対応管理表を鍵のかかるロッカーに確実に保管できている。	②ポータルサイトに掲載することで済む事項が朝の打ち合わせで話されている。ポータルサイトの利用で打ち合わせ時間を短くすることを促していく。今後、学年やグループでの利用できるようになる。③グループとして、個人情報掲載された書類を鍵のかかるロッカーに確実に保管する。	②ポータルサイト導入に対応していることは評価できるが、全職員が日常的に利用できるような研修等を行うとよいのではないか。	②ポータルサイト導入に適切に対応した。ポータルサイトへのアクセスを常時行わない職員が日常的に利用できるような研修等を行うことができるようにする。 ③定期的に事故・不祥事防止の意識啓発を行えた。不祥事防止をその効果が目に見える形で行いたい。	②ポータルサイトへのアクセスを常時行わない職員が日常的に利用できるような研修等を検討し、実施する。 ③事故・不祥事防止の効果的な施策を検討し、実施する。